

尾崎行雄（号堂）の生涯

※年齢の表記は満年齢

安政	5(1858)年 0歳	11月20日、 ^{さがみのくにつくいけんまたのむら} 相模国津久井県又野村（現・相模原市緑区又野）に父・尾崎行正、母・貞の長男として誕生。
明治	2(1869)年 11歳	明治政府に仕官した父のもとへ母とともに上京。平田 ^{かねたね} 鉄胤の塾で学ぶ。
	7(1874)年 16歳	福沢諭吉の慶応義塾に入学。
	9(1876)年 18歳	慶応義塾を退学し、工学寮（のちの東京大学工学部）に転学。
	11(1878)年 20歳	田中 ^{しげこ} 繁子（長崎県出身）と結婚。
	12(1879)年 21歳	福沢諭吉の推薦で新潟新聞主筆となり、新潟県に赴任。
	14(1881)年 23歳	統計院 ^{ごんしやう} 権少書記官に任官され再上京。
	15(1882)年 24歳	郵便報知新聞論説委員を基盤に立憲改進黨結成に参画。
	18(1885)年 27歳	東京府会議員に当選（東京市日本橋区から立候補）。
	20(1887)年 29歳	保安条例で3年間の東京退去命令（明治22.2.11 恩赦）。
	21(1888)年 30歳	欧米視察のため出国し、ロンドンに滞在（明治22.12.24 帰国）。
	23(1890)年 32歳	第1回衆議院議員総選挙当選 （三重県から立候補）。
	31(1898)年 40歳	第1次大隈内閣の文部大臣に就任 。「共和演説事件」で辞職。
	36(1903)年 45歳	第2代東京市長に就任 。
	37(1904)年 46歳	都市計画等、市政改善に着手。繁子夫人死去。
	38(1905)年 47歳	尾崎テオドラ（日本名・英子 ^{ひでこ} ／英国出身）と再婚。
	45(1912)年 54歳	米国ワシントンD.C.へ桜苗木、約3,000本を寄贈。東京市長辞職。
大正	元(1912)年 54歳	犬養毅らと 第1次護憲運動を展開 （閥族打破、憲政擁護）。
	2(1913)年 55歳	桂内閣弾劾演説。
	3(1914)年 56歳	第2次大隈内閣の司法大臣に就任 。
	7(1918)年 60歳	シベリア出兵に反対する。
	8(1919)年 61歳	第1次世界大戦後の欧州視察のため外遊（平和・国際主義の契機）。
	9(1920)年 62歳	普通選挙要求運動の先頭に立つ 。
	10(1921)年 63歳	軍備制限に関する決議を国会に提出、全国遊説に出る 。普通選挙断行同盟を結成。
	13(1924)年 66歳	第2次護憲運動の先頭に立つ （普選実施）。
昭和	6(1931)年 73歳	カーネギー財団の招待で渡米。のちに渡英。
	7(1932)年 74歳	テオドラ（英子）夫人死去。ロンドン滞在中衆議院議員に当選する。
	10(1935)年 77歳	衆議院による憲政功労者表彰（昭和27年再表彰）。
	12(1937)年 79歳	辞世の句を懐に、軍部攻撃演説を行う 。
	16(1941)年 83歳	大政翼賛会に反対する質問書を提出。
	17(1942)年 84歳	翼賛選挙 ^{よくさん} に反対し、東条内閣に公開質問状提出。 「不敬罪事件 ^{ふけいざい} 」で巣鴨拘置所に収監（昭和19.6.27 大審院で無罪判決）。
	23(1948)年 90歳	世界連邦建設同盟創立、初代会長に就任。
	25(1950)年 92歳	米民間組織「日本問題審議会」の招待で渡米。
	27(1952)年 94歳	衆議院から憲政功労者として、重ねて特別表彰される。
	28(1953)年 95歳	第26回衆議院議員総選挙で初めて落選。
		衆議院名誉議員贈号。東京都名誉都民顕彰（第1号）。
	29(1954)年 96歳	10月6日、神奈川県逗子市の居宅・風雲閣にて永眠。



【公共交通機関をご利用の方】

- 橋本駅北口からバス 三ケ木行き（橋09系統）「尾崎記念館」下車すぐ
三ケ木行き（橋01系統）「奈良井」下車徒歩15分

【お車をご利用の方】

- 中央自動車道「相模湖」ICから約25分
- 圏央道「相模原」ICから約15分
- 無料駐車場 5台

利用案内

入館料	無料
開館時間	午前9時から午後4時30分まで
休館日	月曜日（祝日の場合は開館） 祝日の翌日（土・日・祝日の場合は開館） 年末年始（12月28日から1月3日まで） その他（臨時に休館する場合があります。）

各施設の情報



▲ 尾崎号堂記念館
（相模原市立博物館HP）



▲ 相模原市立博物館HP



▲ 相模原市立博物館の
職員ブログ



▲ 相模原市立博物館
X

相模原市立尾崎号堂記念館

〒252-0158 相模原市緑区又野691
TEL：042-784-0660

発行：相模原市立博物館
写真提供：一般財団法人 尾崎行雄記念財団

2025.3



号堂桜

議会政治の父・尾崎行雄のふもと
相模原市立

尾崎号堂記念館



尾崎行雄(号堂)とは

尾崎行雄は、安政5(1858)年に相模国津久井県又野村(現在の相模原市緑区又野)生まれ、幕末から戦後まで激動の時代を駆け抜けた日本の政治家です。雅号である号堂の名でも知られ、「憲政の神様」、「議會政治の父」と呼ばれています。

明治23(1890)年の第1回衆議院議員総選挙において初当選を果たしてから連続当選25回、通算議員在任歴は日本最長※の60年10か月に及び、長きにわたる政治人生の中で、文部大臣、東京市長、司法大臣の要職を歴任しました。東京市長時代に米国ワシントンD.C.のポトマック河畔に約3,000本の桜の苗木を贈ったことは、日米友好を象徴するエピソードとして有名です。

尾崎行雄の功績を語る上で欠かすことのできないキーワードとして、「ふたつのフセン」が挙げられます。ひとつは「普選」。人びとが平等に選挙権を与えられることがまだ当たり前ではない時代、普通選挙実現のために尽力しました。そして、もうひとつは「不戦」です。日本が軍国主義に染まって戦争へ突き進む中、危険を顧みず軍部を批判し、世界平和を希求して声を上げ続けました。

尾崎が心を砕いた民主主義と平和への信念は、今日においても色あせることはありません。

※通算議員在任歴：令和4(2022)年10月現在



▲上京時、父・行正と



▲東京市長室にて



▲三女・雪香との仲睦まじい姿



▲昭和18年風雲閣にて

▲ポトマック河畔の桜の木の下で

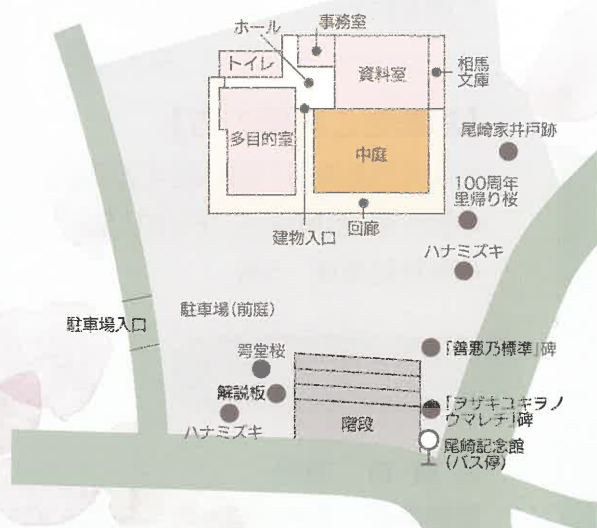
尾崎行雄(号堂)とは

尾崎号堂記念館について

尾崎号堂記念館は、昭和32(1957)年1月に尾崎行雄の生誕地である尾崎家代々の屋敷跡に開館しました。青少年育成に多大な関心を寄せていた尾崎の意志に沿うため、記念館開設の機運が高まり、昭和28(1953)年に組織された「尾崎号堂うまれ地記念事業委員会」によって、県有地として保存されていた尾崎家屋敷跡地に建設されました。記念館の完成を見届けることなく尾崎は没してしまいますが、地元である旧津久井郡をはじめとする全国の方々からの寄付や神奈川県等からの援助により、昭和29(1954)年12月の着工から2年後に完成しました。

昭和33(1958)年度に旧津久井町へ寄贈され、平成2(1990)年に行われた「ふるさと創生事業」による増改築で現在の姿となります。そして、平成18(2006)年3月の市町合併にともなって相模原市教育委員会の所管となりました。記念館内には多数の資料が保存されており、常設展示では写真や肖像画、遺品のほか、尾崎の幅広い活動の足跡を物語る品々をご覧くださいことができます。

施設概略図



施設概要

建物構造

木造1階建て
延べ床面積 229.62㎡

施設案内

資料室、多目的室、事務室(受付)、ホール、トイレ、回廊、中庭、駐車場(前庭)、解説板、尾崎家井戸跡、「善悪乃標準」碑、「ヲザキユキヲノウマレチ」碑、号堂桜植栽、ハナミズキ植栽、100周年里帰り桜植栽

資料室

尾崎行雄の人生をテーマ別にわかりやすく紹介しており、文書・写真・書画・書籍のほか、尾崎が生前愛用していたゆかりの品など約400点の貴重な資料を常設展示しています。

併設の文庫には尾崎の三女・故相馬雪香氏から寄贈された図書類を保管しています。



多目的室

開館当初の目的のひとつである「青少年育成の場」として設置されて以来、現在は研修や講演会など幅広く利用されており、不定期にミニ展示などを開催しています。尾崎行雄に関連する図書の閲覧や映像視聴も可能です。



米国ポトマック河畔の桜が生誕地に 号堂桜・里帰り桜

米国ワシントンD.C.から東京都足立区に里帰りし、「号堂桜」と命名された4品種の桜苗木のうち、「普賢象」1本が平成4(1992)年に植樹されました。また、新たに平成24(2012)年には里帰り桜「染井吉野」1本が、平成29(2017)年には「関山」1本が敷地内に植樹されています。



本人の筆跡で刻まれた碑 「ヲザキユキヲノウマレチ」碑

相模川から採られた石の碑面には、尾崎本人が揮毫した片仮名の文字で「ヲザキユキヲノウマレチ」と刻まれています。この地が尾崎行雄の生誕地であることを伝えるため、昭和23(1948)年に屋敷跡の中心地に建てられましたが、記念館建設にともなって現在の場所に移されたものです。

